

ウンカ類情報第6号（トビイロウンカ）

令和3年8月17日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

トビイロウンカが近隣県で断続的に誘殺されています。

1 トビイロウンカの発生状況

8月上旬に実施した病害虫発生予察調査において、トビイロウンカの発生は確認されておらず、予察灯においても誘殺されていません。また、西三河地域及び東三河地域において臨時で本田調査（3地点15ほ場）を実施しましたが、同害虫の発生は確認されていません。

しかし、岐阜県、三重県及び静岡県において断続的に誘殺が確認されており、**本年の累積誘殺数が10頭以上となっている予察灯もあります**（図1、位置は各県で公表されている地名をもとに表示）。さらに、岐阜県においては7月中旬にほ場で発生が確認されています。これらの状況から、本県においても飛来している可能性が十分にあります。

2 トビイロウンカによる被害及び防除対策

トビイロウンカによる被害は、イネの出穂期から登熟期にかけて数十株から数百株がまとまって不規則な円形に倒伏する坪枯れを引き起こすことが特徴です。また、ほ場の一部で葉が淡く変色することが、坪枯れの初期症状となります（図2）。

トビイロウンカの防除適期は各世代の幼虫発生期となりますので、表1に記載された時期を参考に防除を検討してください。薬剤については、表2を参考にしてください。また、トビイロウンカは株元に生息しているので、液剤及び粉剤による防除を行う場合は、薬剤が株元まで届くように散布してください。粒剤による防除を行う場合は、少なくとも散布後4～5日間は湛水を維持し、7日間は落水、かけ流しを行わないようにしましょう。坪枯れの初期症状が確認された場合は防除の実施または早刈りを実施しましょう。

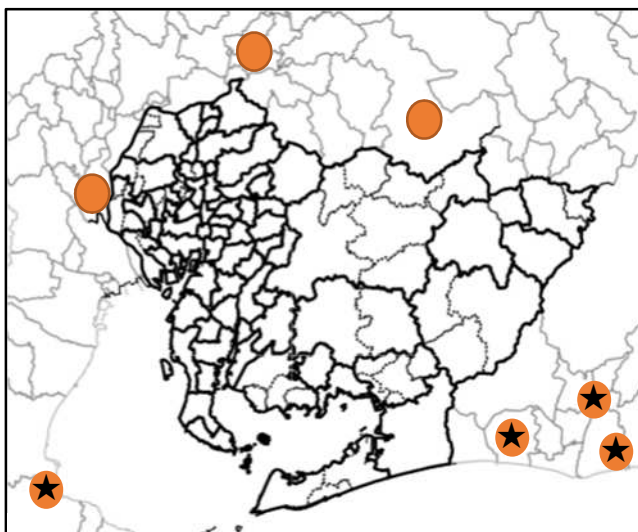


図1 トビイロウンカの誘殺が確認されている予察灯（★：本年累積誘殺数10頭以上）



図2 坪枯れ（赤矢印）及び坪枯れの初期症状（青矢印）

表1 有効積算温度をもとに計算したトビイロウンカ幼虫の発生予測時期

飛来予測		名古屋	岡崎	豊橋	新城
5月中下旬飛来群	第3世代幼虫	8月下旬	8月下旬	8月下旬	8月下旬 ～9月上旬
6月上旬飛来群	第3世代幼虫	8月下旬 ～9月上旬	9月上旬	8月下旬 ～9月上旬	9月上旬
7月上旬飛来群	第2世代幼虫	8月下旬 ～9月上旬	8月下旬 ～9月上旬	8月下旬 ～9月上旬	8月下旬 ～9月上旬
	第3世代幼虫	9月下旬 ～10月上旬	9月下旬 ～10月中旬	9月下旬 ～10月上旬	9月下旬 ～10月中旬

各地のアメダス平均気温から予測（8月16日計算）。

8月15日までは実測値を、それ以降は平年値を用いて計算。豊橋は前年値を用いて計算。

表2 トビイロウンカに対する主な防除薬剤

薬剤名	成分名	使用時期	本剤の使用回数	IRACコード
トレボン乳剤	エトフェンプロックス	収穫14日前まで	3回以内	3A
キラップフロアブル	エチプロール	収穫14日前まで	2回以内	2B
アルバリン/スタークル顆粒水溶剤				
アルバリン/スタークル粒剤	ジノテフラン	収穫7日前まで	3回以内	4A
スタークル液剤10				
エクシードフロアブル	スルホキサフロル	収穫7日前まで	3回以内	4C
トレボン粉剤DL	エトフェンプロックス	収穫7日前まで	3回以内	3A
エミリアフロアブル	フルピリミン	収穫7日前まで	2回以内	4F

使用回数は同一成分の剤を含む成分ごとの総使用回数に注意する。

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRACコードの詳細は、https://www.jcpa.or.jp/labo/pdf/2020/mechanism_irac02.pdfを参照する。

薬剤の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守り、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。